一般質問

9月10日、5名が登壇
市政を問う

議会の様子は「YouTube」で配信されています。

一般質問

・漁業振興と遠州灘沿岸の保全の両立及び海水浴場の維持について
・2028年改正社会福祉法運用に向けた本市及び社会福祉協議会の事前対応について



小田芳久

問 養浜事業は美しい海岸を維持するだけでなく背後地の道路を保全するためにも必要です。しかし、カキやワカメなど貴重な生物環境への悪影響は回避しなければなりません。これまでの養浜事業をどのように考えていますか

答 沿岸侵食対策として養浜事業は必要なものと認識しております。一方で漁業関係者からは、養浜により、カキやワカメなどの生育に影響が出ているとの声もあります。因果関係が明確になってはいませんが、本市としては、沿岸の保全、道路の保護、海水浴場の維持、漁業振興、自然環境の保全を大切にしながら、関係者とのコミュニケーションを継続し、これらを両立できるよう県へ継続して働きかけてまいります。また、砂の流出防止のために突堤の建設などの対策についても強く県に要望してまいります。

問 改正社会福祉法により、身寄りのないお年寄りや判断能力が不十分な方に対し、日常生活支援、入退院支援、利用者が亡くなられた後の葬儀・納骨・家財処分・行政官庁への届出など支援されることとなります。その事務手続きを社会福祉協議会が担い手となると思われますが、手続きには成年後見人の承認業務が多く含まれます。成年後見人制度の社会福祉協議会の法人受任を含めて御前崎市の現状を福祉課長に伺います

答 令和元年度より社会福祉協議会が法人後見人として受任を開始し、現在までに累計10名の成年後見人を担当され、成年後見制度の申し立ても年々増加している状況です。また、平成30年度から掛川市、菊川市と連携し「市民後見人養成講座」を共同開催し、多様な後見人候補者を育成し、社会福祉協議会が法人後見の支援体制を強化するために重要な役割を担っています。現在では、養成講座の修了者の中から市民後見人が社会福祉協議会の支援員として活躍しています。

一般質問

・茶業振興について



阿形　昭

問 御前崎市で生まれたお茶の品種「つゆひかり」は渋みが少なく旨みと甘みが強いことが特徴です。つゆひかりの味を伝える方策は

答 御前崎市茶業振興協議会が中心となり、毎年ゴールデンウィークに合わせ、茶園ピクニックやつゆひかりカフェ等のイベントを開催しております。また、県外の方にもつゆひかりを知っていただくために、愛知県内の物産展や姉妹都市の長野県高森町の高森ふるさと祭りへ出店し、試飲等により販売促進につながるＰＲをしています。

問 御前崎市がブランド化をすすめている「つゆひかり」。つゆひかりの振興策は

答 御前崎市茶業振興協議会におきまして、本年度から「つゆひかり」への改植を実施する生産者に対し、苗木購入の補助をすることにより、市内生産者の改植促進を図ってまいります。本年度の予算規模は27万円となっております。

問 昨年度0円だった御前崎茶推進費。本年度は、27万円を計上しました。苗木購入の補助金制度を実施したいきさつは

答 御前崎市茶業振興協議会では、これまで販売促進を主に行ってまいりました。昨年度の茶業振興協議会幹事会において、生産者に対する支援も同時に実施すべきであるとの意見をいただき、本年度からつゆひかりの苗木購入に対する補助金制度を実施するに至りました。

